

「北野工房のまち」兵庫県神戸市

旧北野小学校は1996年（平成8年）3月に全校生徒数126名となり、この児童数の減少と1995年（平成7年）におきた阪神淡路大震災の被害によって、隣接する3つの小学校との統合が決定され、閉校となりました。

87年の長い歴史があり、卒業生のみならず地域住民の方々からも、閉校を惜しみ、思い出の詰まった校舎を保存してほしいという声が多くあがり1998年（平成10年）7月11日に『北野工房のまち』が誕生しました。



※地元産業の販路拡大や起業支援、外国人観光客の誘致などが見込めます。

学校の跡地活用事例②

「大智学園高等学校」東京都新宿区

旧淀橋中学校は1997年（平成9年）3月、隣接する新宿区立淀橋第二中学校との統合により、閉校となりました。

2007年（平成19）年4月、福島県双葉郡川内村に本校を置く、大智学園高等学校（単位制・通信制）の東京校として開校しました。



※単位制通信制高校は、全日制に比べて少ない単位で高校を卒業できるため、生徒の個性を伸ばしたり、地域活動への参画など、様々なプログラムが導入可能です。

参考) <http://www.daichi.ed.jp/>

学校の跡地活用事例③

「よしもとクリエイティブカレッジ」東京都新宿区

旧四谷第五小学校は、1995年に旧四谷第七小との統合により閉校となりました。その後、新宿区の分庁舎として使用されていましたが、2008年から吉本興業および同社のグループ会社が新宿区から賃借し東京本部ビル（よしもとクリエイティブカレッジ）として利用しています。



※特定の分野やジャンルに特化した施設（アートセンター、ミュージアムなど）を作ることで、新たな地域参加者をつながることも期待できます。

参考) <https://fkaidofudo.exblog.jp/12960087/>

学校の跡地活用事例④

「十思スクエア」東京都中央区

旧十思（じっし）小学校は平成2年3月に閉校しました。

平成13年からは、「日本橋お年寄りセンター」「デイルーム」「医師会立訪問看護ステーション」「コミュニティルーム」「協働ステーション中央」「十思保育園」が入っている複合施設「十思スクエア」として利用されています。

更に隣に公衆浴場「十思湯」「小ホール」「ケアサポートセンター：地域密着型特別養護老人ホーム」が入る十思スクエア別館が完成しました。屋上には田んぼと畑があり日本橋小学校の子ども達が農作物を作っています。



※地域住民の新しい居場所として利用することで、コミュニティづくりに繋がります。

参考) <https://blogs.yahoo.co.jp/hsnm3373/42105565.html>

学校の跡地活用事例⑤

「R373やまさと」 鳥取県智頭町

旧山郷小学校は、智頭町内6つの小学校が統廃合されるのに伴い、平成24年3月に閉校しました。

智頭杉で建てられた山郷自慢の木造校舎を、これからも地区の人たちの“集いの場”として利活用すると共に、将来を見据えた活動拠点にしていくという思いから、平成26年3月、旧山郷小学校を地区内外の交流施設としてリニューアルオープン。

国道373号線に面していること、行き交う“みなさん（373）”の交流の場になればとの願いを込めて、「R373やまさと」と命名しました。



※コミュニティをはぐくむ場、地域内外の交流の場として機能。

参考) <https://r373yamasato.jimdo.com/r373やまさと/>

参考

(一財) 都市農山漁村交流活性化機構 (まちむら交流きこう)

<https://www.kouryu.or.jp/service/haiko.html>

